

S calamobil

—可搬型階段昇降機（介助用階段昇降機）—

取扱説明書

<保証書付>

この度は、「スカラモービル」をお選び頂きまして誠にありがとうございます。この取扱説明書では、スカラモービルを安全に正しくご使用して頂く為の必要事項や使い方が説明されています。ご使用になる前に必ずお読み下さい。また、保証書がついていますので大切に保管して下さい。

階段昇降機・スカラモービルは
 **Alber Japan**
株式会社アルバジャパン



目次

禁止

警告

注意

操作者の条件

厳守

スカラモービル概要

スカラモービルについて	P4
最大積載量	P5
スカラモービルの種類	P6
各部の名称(全体、細部)	P7~8
電源スイッチ・自動電源OFF	P9
シンボル表示	P9
方向選択スイッチ	P10
駆動スイッチ	P10
使用前点検(機能チェック)	P11
操縦者に合うようにスカラモービルを調整する	P12
昇降する階段にスカラモービルを合わせる	P13
駆動輪を並べる	P14
ブレーキテスト	P14

バッテリーパックについて

バッテリーパックの充電	P15
バッテリーパックを取り外す	P16
スカラモービルで使用されるバッテリー	P16

スカラモービルと環境

使用出来る環境(階段の種類と寸法)	P18
清掃	P19
安全維持検査	P19

階段での使用について

階段の昇降	P20
階段を昇る	P20
階段を昇る(詳細説明)	P21
階段を降る	P22
階段を降る(詳細説明)	P23
らせん階段(昇り/降り)	P24
金属製の階段(昇り/降り)	P25
バランスの取り方	P26

輸送と収納

スカラモービルの分解・組み立てと輸送	P27
輸送中のスカラモービルの固定	P28

スカラモービルのタイプ(車いすタイプ)

車いすタイプについて	P29
車いすへの取り付け方	P30
車いすの取り付け方(詳細説明)	P31~32
車いすの後輪の外し方	P33
車いすの後輪の外し方(詳細説明)	P33
車いすの取り外し方	P34
車いすの取り外し方(詳細説明)	P35
スカラモービルを取り付けたまま車いすで移動	P35

スカラモービルのタイプ(ポートタイプ)

ポートタイプについて	P36
ポートタイプの展開と折りたたみの仕方	P37
ポートタイプと車いすの適合確認表	P37
ポートタイプの車いすへの取り付け方	P38
ポートタイプの車いすの取り外し方	P39

スカラモービルのタイプ(コンピタイプ)

コンピタイプについて	P40
コンピタイプの展開の仕方	P41
コンピタイプの折りたたみの仕方	P41

その他の設定

盗難防止機能	P42
自動電源OFF	P42
コンソールボックス	P43

故障かな?と思ったら

安全確保のための注意点

技術データ

保証・保証書

会社概要

禁止

この表示の欄は、「してはいけない危険行為」内容です。

- インストラクターの指導を受けていない人は、決して操作しないで下さい。
- 下記の条件に当てはまらない人は、決して操作しないで下さい。



正規代理店か輸入総販売元から取扱講習を正式に受けて「操作者講習確認書」を取得した人
後向きに階段を昇ることが出来る人 / 自分の体重の20%の重量を持ち上げることが出来る人
あらゆる状況で安全に機器を操作する体力的・精神的能力がある人 / 初めて操作を行う年齢が70歳を超えていない人
身長が150cm以上の人 / 体重が45kg以上の人 / 発作性の病歴がない人

警告

下記は、取り扱いを誤った場合、操作者と搭乗者が「重症を負う、または死亡する可能性が想定される」内容です。

- 階段の昇降中は、決してハンドルから手を離さないで下さい。
- 濡れた階段や凍結した階段でのご使用は危険です。使用しないで下さい。
- 雨天時や風が強い場所でのご使用は危険です。使用しないで下さい。
- 脱げやすい履き物(スリッパ等)での操作はお止め下さい。
- 搭乗者の方は、階段昇降中シートベルトを着用して下さい。

注意

下記は、取り扱いを誤った場合、操作者と搭乗者が「障害や物的損害を負う可能性が想定される」内容です。

- 安全快適にご使用頂くために、この取扱説明書をよく読み、理解をしてから操作をして下さい。
- 最大積載重量(車いすを除いて140kg)を厳守して下さい。
- 使用出来る階段の寸法の範囲以内でご使用下さい。
- ご使用前に、バッテリーの充電と表示ランプの確認を行って下さい。
- ご使用前に、必ず各部の点検を行って下さい。
- 階段昇降の前に、必ずブレーキテストを行って下さい。
- 駆動輪に手や足を入れないで下さい。
- 異常を感じたり発見した場合は、直ちに使用を中止し、販売店にご相談下さい。

スカラモービルについて

— 操作者の条件 —

安全上の理由で、スカラモービルは次のような人へのみ、操作可能とさせていただきます。

- 正規代理店か輸入総販売元から取扱講習を正式に受けて「操作者講習確認書」を取得した人
- 後向きに階段を昇ることが出来る人
- 自分の体重の20%の重量を持ち上げることが出来る人
- あらゆる状況で安全に機器を操作する体力的・精神的能力がある人
- 初めて操作を行う年齢が70歳を超えていない人
- 身長が150cm以上の人
- 体重が45kg以上の人
- 発作性の病歴がない人

— 厳守 —

下記は「操作者に必ず実行して頂く」内容です。

スカラモービルは、車いすに人を乗せたまま階段を昇降可能な介護機器です。優れた機能で利便性が高い一方、取り扱い不備や操作ミス（手を離す、足を滑らす）によっては、落下事故や転落などの危険性もあります。より安全にお使い頂くために、スカラモービルの「可搬型階段昇降機安全指導員」の資格を持ったインストラクターが操作をする方へ、製品の機能や仕様の説明と十分な操作指導を行い「操作者講習確認書」を発行致します。

- ご使用になる前に、必ず「可搬型階段昇降機安全指導員」の資格を有するインストラクターの操作指導を受けて下さい。
- 操作指導を受けたあと、必ず「操作者講習確認書」を受領し保管して下さい。

Scalamobil

—可搬型階段昇降機（介助用階段昇降機）—

介助者（操作者）ひとりで要介護者を車いすに乗せたまま階段昇降ができ、且つ、そのまま平地走行も出来るようデザインされた完全移動型の可搬型階段昇降機が福祉先進国ドイツで開発された「スカラモービル」です。



Scalamobil

—可搬型階段昇降機 (介助用階段昇降機)—

車いすで移動する高齢者や障害者の方々が次のような場所を移動するためには、複数の介助支援者による多くの労力を必要とします。以下の環境でも、介助者(操作者)ひとりで要介護者を車いすに乗せたまま階段昇降でき且つ、そのまま平地走行も出来るようにデザインされた完全移動型の可搬型階段昇降機が福祉先進国ドイツで開発された「スカラモービル」です。

エレベーターのない2階建て以上の建築物の屋内階段・屋外階段

エレベーターのない団地集合住宅の階段

エレベーターの止まらない階がある高層住宅の階段

一般住宅の道路から玄関までのアプローチ階段

玄関ポーチ玄関の上がりかまち

屋内階段
学校施設内の階段

歩道橋の階段

歴史的観光施設の階段

地方の駅舎の階段

最大積載量

最大積載量180kg

車いすや荷物の重量を差し引いて乗せる人(搭乗者)の体重は最大140kg前後となります。但し、使用者の身長や体重、体力で多少変わります。

スカラモービルの種類

スカラモービルは3種類のタイプがあります。

車いすタイプ

本体の取り付け・取り外しが簡単で車いす単体としても使用出来ます。

▶ 詳しくはP29へ



ポートタイプ

様々な仕様の車いすを階段昇降させるための階段昇降機です。

▶ 詳しくはP36へ



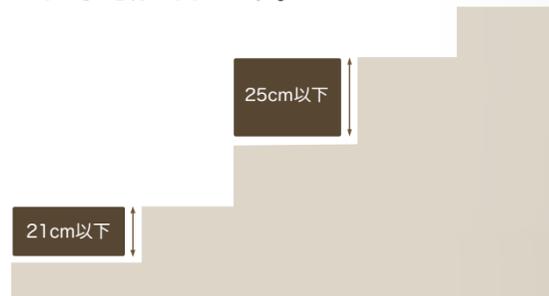
コンビタイプ

階段幅や踊り場の狭い階段昇降に適した本体と一体型タイプです。

▶ 詳しくはP40へ



昇降可能な階段の高さは2種類あります。階段一段の最大の高さは21cmまたは25cmです。



▶ 詳しくはP18「使用出来る環境(階段の種類と寸法)」へ



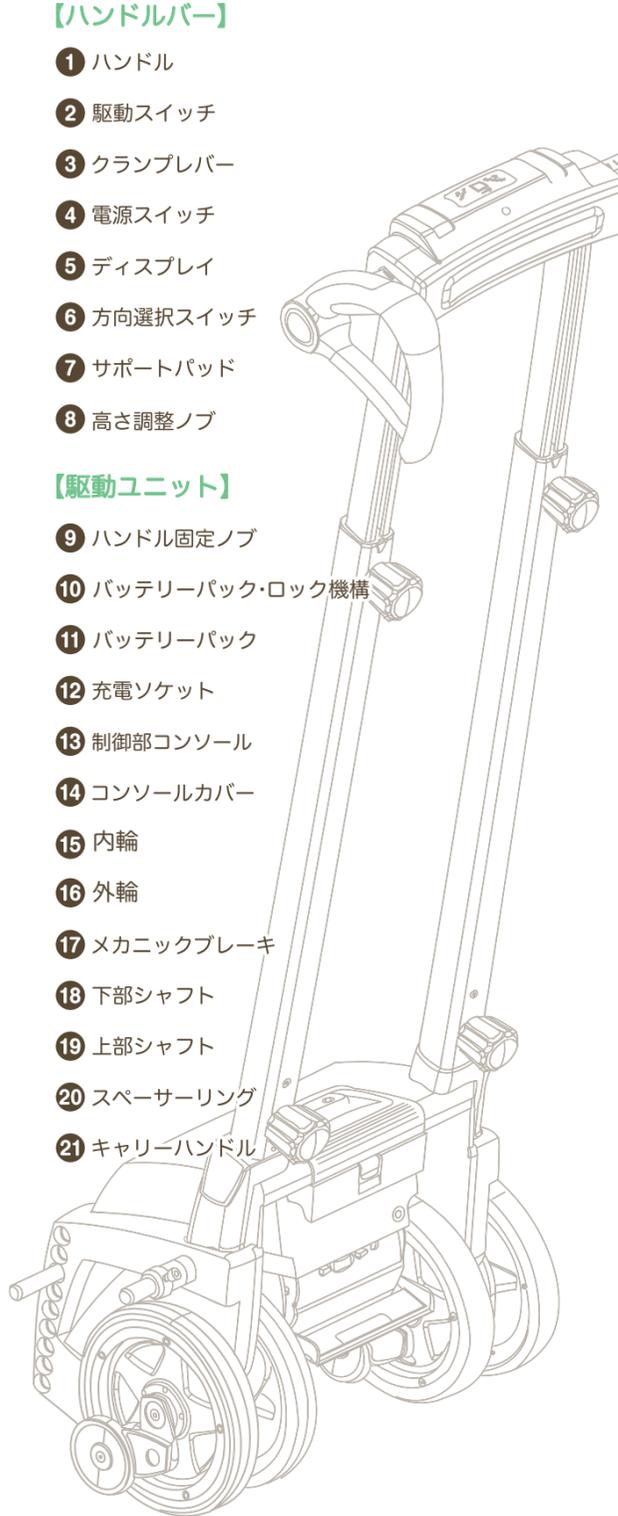
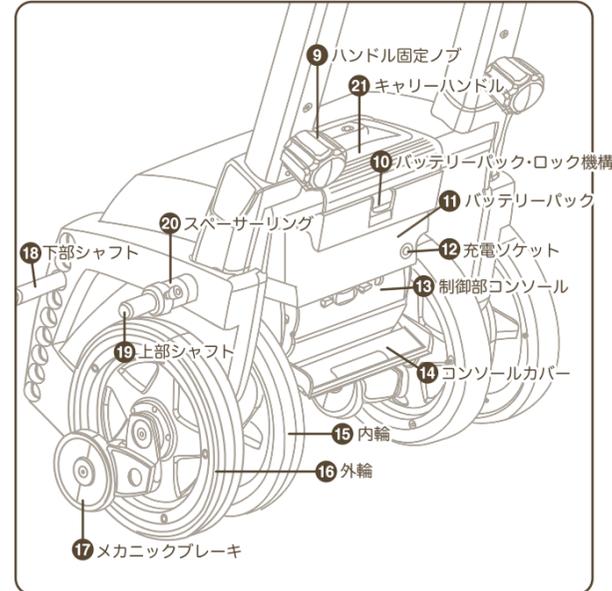
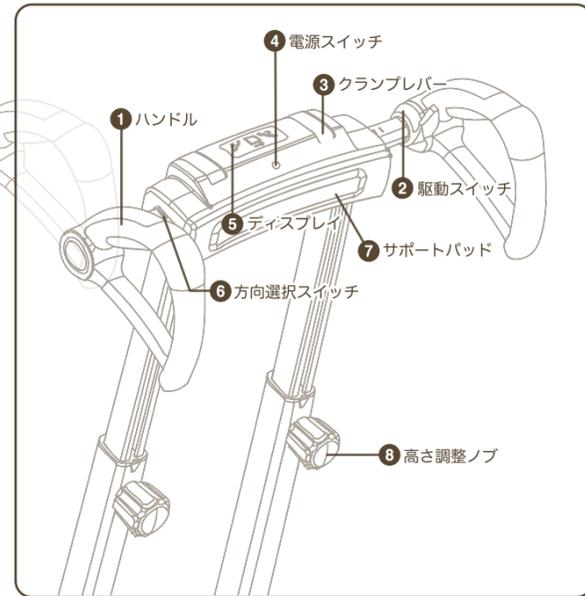
各部の名称(全体)

【ハンドルバー】

- ① ハンドル
- ② 駆動スイッチ
- ③ クランプレバー
- ④ 電源スイッチ
- ⑤ ディスプレイ
- ⑥ 方向選択スイッチ
- ⑦ サポートパッド
- ⑧ 高さ調整ノブ

【駆動ユニット】

- ⑨ ハンドル固定ノブ
- ⑩ バッテリーパック・ロック機構
- ⑪ バッテリーパック
- ⑫ 充電ソケット
- ⑬ 制御部コンソール
- ⑭ コンソールカバー
- ⑮ 内輪
- ⑯ 外輪
- ⑰ メカニクブレーキ
- ⑱ 下部シャフト
- ⑲ 上部シャフト
- ⑳ スペーサーリング
- ㉑ キャリーハンドル



各部の名称(細部)

【ディスプレイ】

- ㉒ 「昇り」表示
- ㉓ バッテリーパック充電警告
- ㉔ 「降り」表示
- ㉕ 盗難防止表示

【制御部】

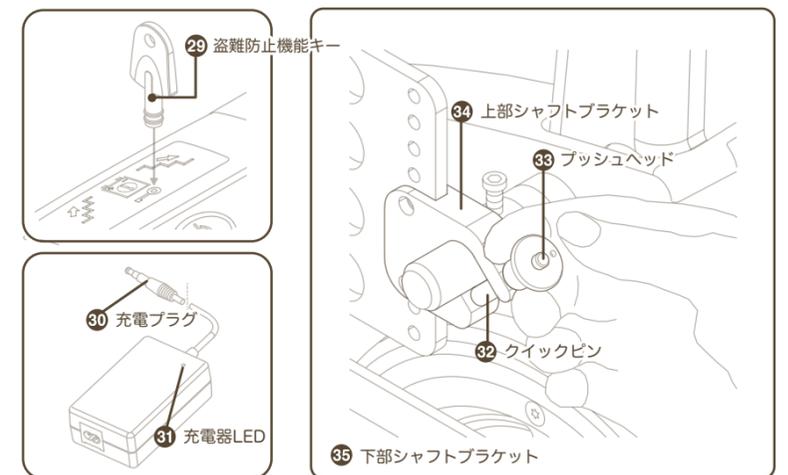
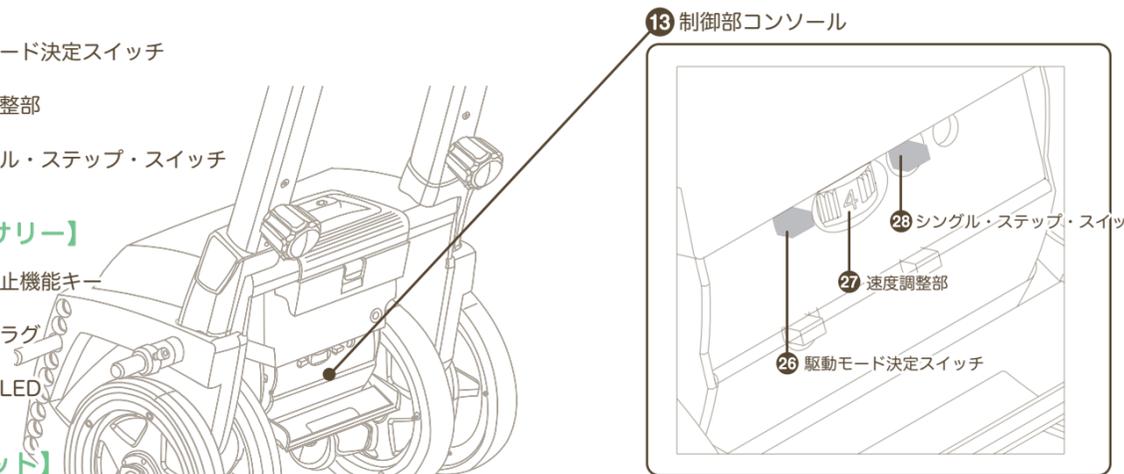
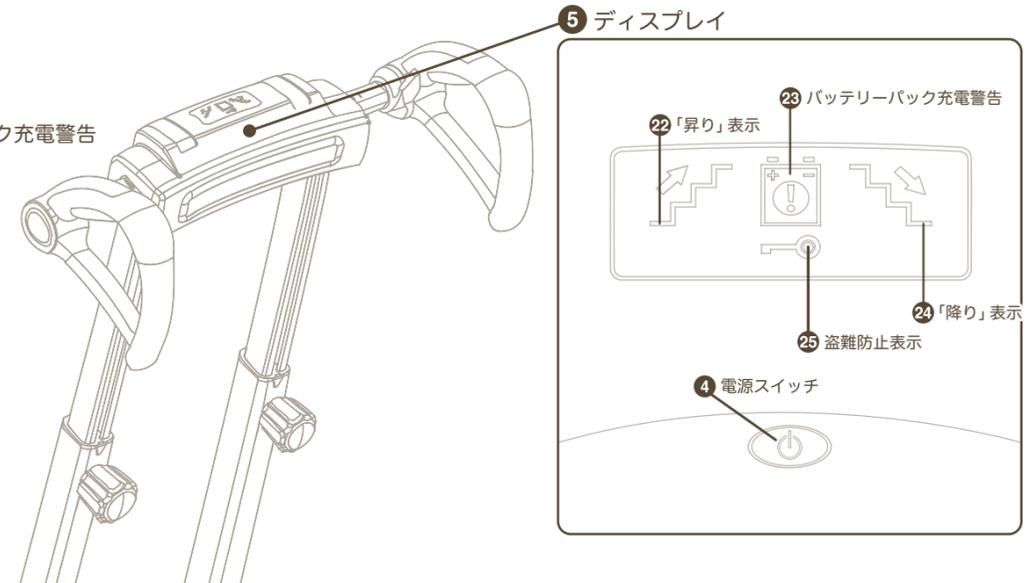
- ㉖ 駆動モード決定スイッチ
- ㉗ 速度調整部
- ㉘ シングル・ステップ・スイッチ

【アクセサリ】

- ㉙ 盗難防止機能キー
- ㉚ 充電プラグ
- ㉛ 充電器LED

【ブラケット】

- ㉜ クイックピン
- ㉝ プッシュヘッド
- ㉞ 上部シャフトブラケット
- ㉟ 下部シャフトブラケット



電源スイッチ・自動電源OFF

電源 ON

電動スイッチを押すと、機能チェックが行われます。ディスプレイのすべての表示が短い間点灯し、機能チェック後に表示は現在の状態を表示します。電動スイッチのONのランプ 23 が点灯し、表示パネル (22 か 24) は現在選択している昇降方向を示します。

自動電源 OFF

電源スイッチを入れてから5分間操作のない場合は、バッテリーセーブのために自動的に電源OFFになります。

電源スイッチを偶然ON/OFFにしないよう、衣類、バッグまたは他の物をハンドルバーに引っ掛けないで下さい。

スカラモービルの電源スイッチを切る時、駆動輪はそのままの状態となります。操作者は駆動輪4輪を同一線状に並べて止めること(一番バランスが安定した状態)をお勧めします。

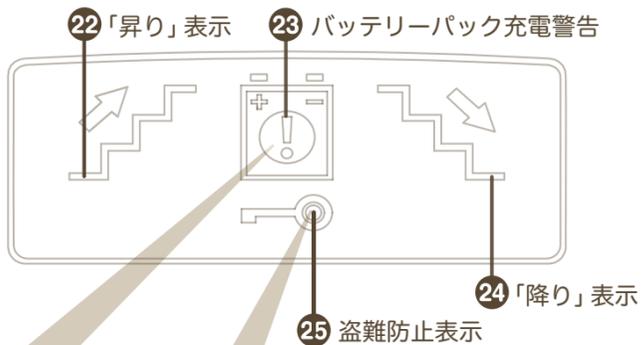
4 電源スイッチ



シンボル表示

緑色で点灯する「昇り表示」ランプ 22 は、「昇り」モードが事前選択されています。

緑色で点灯する「降り表示」ランプ 24 は、「降り」モードが事前選択されています。



バッテリーパック充電警告ランプが点滅しない場合は、バッテリーパックの充電容量は十分あります。

バッテリーパック充電警告ランプが赤点滅する場合は、充電容量が25%以下になっていることを表しており、バッテリーパックを出来るだけ早く、再充電して下さい。

バッテリーパック充電警告ランプが赤点滅し「降り」ランプが緑点滅する場合は、充電容量がほぼ0%に近くなっており、階段を昇ることが出来ない状態を表しています。「降り」モードを選択して、現在の昇降を止め、階段から離れて下さい。

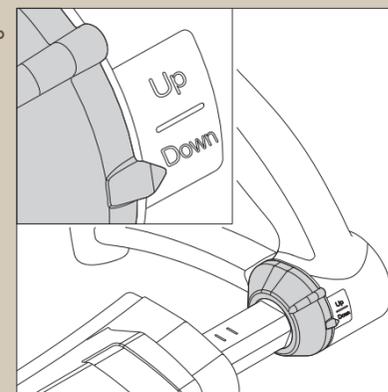
盗難防止ランプが黄色点滅の場合は、盗難防止機能がONになっています。

盗難防止ランプが点滅していない場合は、盗難防止機能がOFFになっています。

方向選択スイッチ

方向選択スイッチはハンドルバーの左側に配置されています。

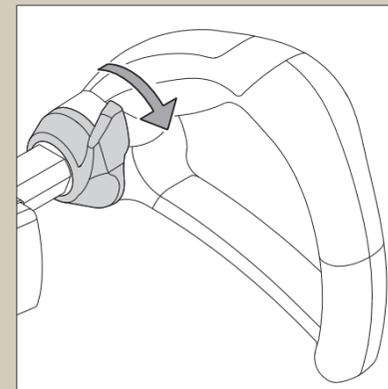
- 階段を昇るには、方向選択スイッチを”Up”にして下さい。
- 階段を降りるには、方向選択スイッチを”Down”にして下さい。
- 静止している時だけ、方向指示を変えることが出来ます。
- 階段を昇降している間は、方向指示を変えることは出来ません。
- 階段を昇降している間に方向選択スイッチを変えると、昇降動作が止まります。



駆動スイッチ

駆動スイッチはハンドルバーの右側に配置されています。

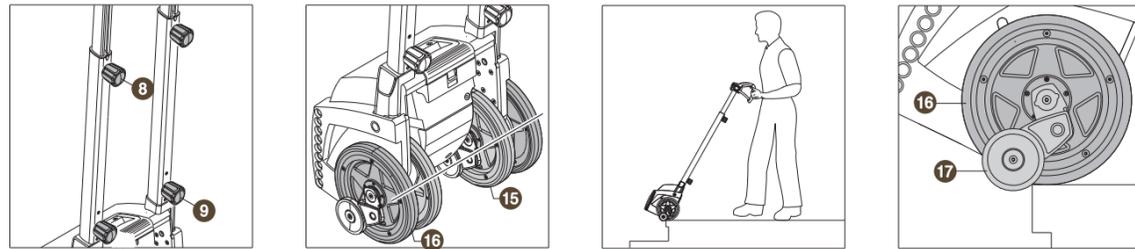
駆動スイッチを「親指」で押してモーターを駆動させ、方向選択スイッチで選択された方向にスカラモービルのタイヤを回転させます。スカラモービルの動きを止めるには、駆動スイッチを離して下さい。ハンドルグリップはいつもしっかり握って下さい。



使用前点検(機能チェック) ※要介護者を搭乗させる前に行ってください。

バッテリーパックが完全に充電されていることを確認して階段を昇降して下さい。バッテリーパックが充電不足の場合、階段途中で立ち往生する可能性があるためです。また、階段昇降する前に、安全上の観点から必ずブレーキを点検して下さい。スカラモービルの電源をOFFにしてこの点検を行ってください。

- 2つのクランプレバーはハンドルバーの本体に完全に押し込んで下さい。
- ハンドルの高さ調整ノブ ⑧ が適切に締付け、緩和が可能か確認して下さい。
- 駆動ユニット上の2つのハンドル固定ノブ ⑨ をチェックして、それらが適切に締められているか確認して下さい。
- 内輪 ⑮ と外輪 ⑯ の駆動輪が一直線に並んでいるか確認して下さい。
- ゆっくり階段の段鼻の上でスカラモービル本体を押して下さい。段鼻上でメカニックブレーキ ⑰ が効いて落下を防ぐことを確認して下さい。
- メカニックブレーキが適切に動作するのを確認して、スカラモービルを操作し始めて下さい。



⚠ ブレーキのひとつまたは両方が適切に動かない場合は、絶対にスカラモービルを操作しないで下さい。 ⚠

小さい障害物（小石など）がメカニックブレーキ内にあるだけでも、不具合の原因となります。障害物を取り除いた後に、不具合が継続する場合、スカラモービル自体に欠陥があります。直ぐに、正規代理店か総販売元に連絡をして下さい。専門の技術者によって原因が調べられるまで、スカラモービルを操作しないで下さい。

操作者に合うようにスカラモービルを調整する

スカラモービルを正しく安全に取り扱うために、操作者は胸か肩の高さまでハンドルを調整します。ハンドルの高さを再調整する必要がある場合は、以下のように行って下さい。

ハンドルバーが急落するのを防ぐため、片手でハンドルバーを持ちながら左右のハンドルの高さ調整ノブを緩めます。

ハンドルバーを上下させ、適切な位置までスライドさせて下さい。操作者の胸元か肩の高さに合わせます。

位置が決まったら、高さ調整ノブをしっかり締めて下さい。



⚠ スカラモービルは機器の後ろ側から操作する仕様になっています。前側や側面に立って、スカラモービルの操作は決して行わないで下さい。

⚠ 定期的に専用取付金具を点検して下さい。取付金具がしっかり車いすにボルトで留められているかどうか確認して下さい。ボルトの締まりが緩くなっていた場合、正規代理店か総販売元に連絡して下さい。問題の箇所が専用取付金具である場合は締め直してもらうようにして下さい。決して、自分の判断で行わないで下さい。

⚠ ハンドルバーの高さを調整する時には、急にハンドルが落下する危険性があるので手や指がスタンドパイプ内の溝に挟まれないように注意して下さい。

昇降する階段にスカラモービルを合わせる

通常、ハンドルグリップの距離は肩幅程度が基準となります。
以下の通り、ハンドルグリップを調整して下さい。

左右の締め付けレバーを引き起こして下さい。
スライド部を調整することが出来ます。

左右のハンドルグリップを適切な位置にスライドさせて下さい。

この位置で締め付けレバーをハンドル本体に完全に
押し戻すことによって、位置を固定します。



※実際のイメージです

! ハンドルを調整した後に、その位置で適切に固定されたかどうかを点検して下さい。
締め付けレバーが完全にロックされていない場合、ハンドルが動く恐れがあります。



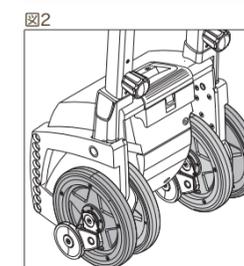
ハンドル位置を調整する時や締め付けレバーを引き起す際、
はずみで指や手に怪我する場合がありますので、気を付けて下さい。

駆動輪を並べる

はじめにスカラモービルを図1のように傾け、バランスを取った状態にします。次に内側と外側の駆動輪を正しく整列させます。図2で示しているように、4輪を一直線に並べなければなりません。またその時、4輪すべてが地面に適切に接触していることが条件となります。駆動輪を整列させるためには2つの方法があります。

手動での整列 駆動スイッチを操作して、4輪を正しく並べます。
方向の指示（昇り / 降り）は無関係です。

自動での整列 シングル・ステップ・モードに設定して下さい。
1. 駆動スイッチを押して下さい。
方向の指示（昇り降り）は無関係です。
2. 駆動輪は自動的に正しい所定の位置で停止します。
3. 駆動スイッチを離して下さい。



駆動輪を整列させることが出来ない場合は、スカラモービルを使用しないで下さい。但し、数ミリの駆動輪の整列誤差は許容範囲であり、技術的な理由で起こり得ます。

ブレーキテスト

各駆動輪は別々のメカニックブレーキを備えています。ブレーキパッドはメカニックブレーキ内に配置されています。土が付いていないかどうか、定期的に駆動輪のブレーキパッドと合わせ面をチェックして下さい。これらの表面は土、髪、カーペット繊維、油またはグリースによって汚れないようにして下さい。これらがあると車輪の制御機能を損なう原因になります。メカニックブレーキのすべての部分がスムーズに駆動することを確認して下さい。メカニックブレーキ内の汚れが正常なブレーキを妨げる場合があります。



アルコール等で、内側、外側の駆動輪、メカニックブレーキの合わせ面、およびブレーキパッドを定期的にかleanにして下さい。

清掃頻度の目安

毎日使用→毎週1回清掃

時々使用→毎月1回清掃

▶詳しくはP19「清掃」へ

バッテリーパックの充電



ステップ

- ▶ スカラモービルの電源スイッチは切ってください。充電されている間、スカラモービルの電源スイッチを入れることは出来ません。
- ▶ 専用充電器をコンセントに差し込み、プラグの先端をバッテリーパックの充電口に差し込んで下さい。
- ▶ バッテリーパックの充電器ソケットにバッテリー充電器のプラグを挿入して下さい。

ポイント

バッテリーパックは、スカラモービルから取り外しても装着されたままでも、充電出来ます。

バッテリーパックを取り外す

スカラモービルを輸送する必要がある時、駆動ユニットからバッテリーパックを取り外すことを推奨します。



ステップ

- ▶ バッテリーパック・ロック機構を押し下げて下さい。
- ▶ バッテリーパックを引き出して下さい。
- ▶ バッテリーパックをスカラモービルの駆動ユニットに再度入れ込む時、自動的にロックが掛かります。「カチッ」と音がして固定されるのを確認して下さい。

ポイント

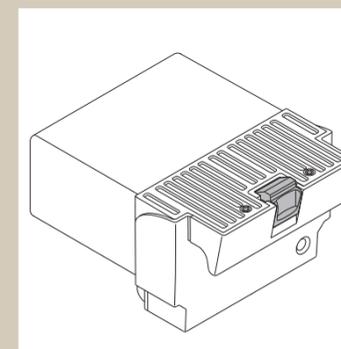
スカラモービルの駆動ユニットからバッテリーパックを取り外している間、バッテリーパックを充電出来ます。

スカラモービルで使用されるバッテリー

スカラモービルのバッテリーは、メンテナンスフリーの鉛シールドバッテリーです。耐用年数は、充電/放電サイクルの回数に影響されません。鉛シールドバッテリーは、補充電だけで800回前後、満充電は200回前後充電出来ます。スカラモービルは、バッテリーの容量状態をモニターして、その結果完全放電を防ぎます。

スカラモービルの使用後にバッテリーを充電して、バッテリーが完全に放電されないように防いで下さい。

バッテリーが長時間充電なしで放置されると、自然放電し容量を失います。しかし、充電/放電を繰り返せばバッテリーはその性能を維持します。

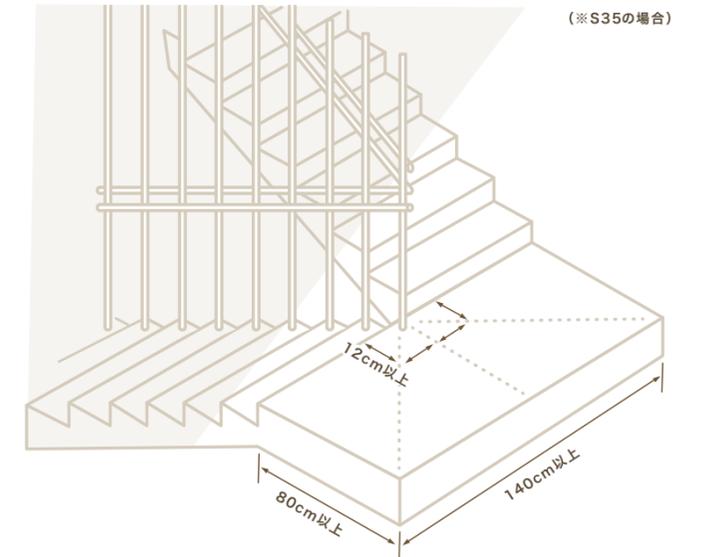


-  バッテリーパックは適切に取扱って下さい。取扱いを誤ると、バッテリー液が流出し、破損、故障する恐れがあります。また、流出した液体は皮膚のかぶれや機器が損傷する原因となります。
-  バッテリー内部の液体が目や皮膚に触れた場合は、すぐに水道水で十分に洗い流し、病院で診断を受けて下さい。
-  バッテリーを火に近づけたり、火に投入しないで下さい。爆発の恐れがあります。
-  バッテリーをショートさせないで下さい。ショートによりバッテリーやスカラモービル本体を破損させる恐れがあります。
-  バッテリーが耐用年数に達した場合は、適切に破棄するために専門業者に依頼して下さい。
-  乾電池バッテリーと同じグループで分類され、航空機輸送のために、DOT(合衆国運輸省)とIATA(国際航空運送協会)によって承認されています。

使用出来る環境(階段の種類と寸法)

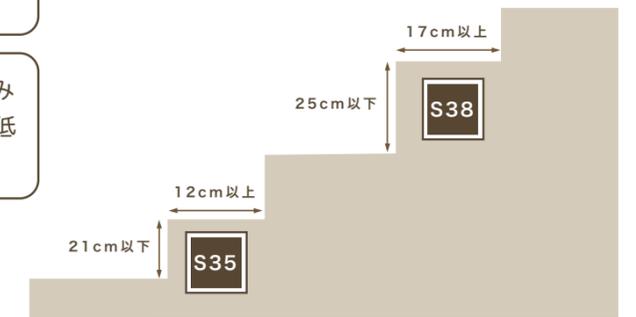
スカラモービルで昇降出来る階段の寸法は図の通りです。

-  階段の種類はコンクリート、鉄製、木製、大理石、絨毯貼りの階段の使用も可能です。階段の形状は直線階段はもちろん、らせん階段でも使用出来ます。
-  階段の段鼻(端)が不揃いな自然石等の階段では使用出来ません。



 一段の高さ(蹴上げ)は21cm以内、奥行き(踏み幅)は12cm以上です。また階段の横幅は最低70cm以上必要です。

 一段の高さ(蹴上げ)は25cm以内、奥行き(踏み幅)は17cm以上です。また階段の横幅は同様に最低70cm以上必要です。



操作講習時、階段の段鼻(端)に厚みのある滑り止めレールを貼り付けた階段は注意して操作して下さい。そのレールをタイヤがスムーズに越えられず、段鼻(端)まで押し出せないことがあります。

清掃

スカラモービルは定期的な清掃が必須となります。汚れが付着した際には、乾いた雑巾やタオル等で拭き取って下さい。汚れがひどい場合には、かたく絞った雑巾やタオルで汚れを落として下さい。
※ハンドル・駆動輪・ブレーキは特に清潔に保って下さい。

清掃頻度の目安

毎日使用→毎週1回清掃

時々使用→毎月1回清掃

安全維持検査

スカラモービルは定期的な点検が必須となります。各機能の安全性確保のため、年一回の保守点検を推奨します。保守点検ではスカラモービルをお預かりし、専門技術者による安全維持検査を実施します。点検時に欠陥（摩耗や損傷など安全性に影響を及ぼすもの）が検出された際は、修理・交換対応をさせていただきます。保守点検を依頼するには、直接正規代理店または総販売元に連絡して下さい。

階段の昇降

スカラモービルを使用する際には、搭乗者のシートベルト着用が必須となります。また、機器の取り付け、取り外しは安定した水平な場所で行って下さい。



階段を昇る



1 搭乗者が適切に車いすに乗れているかを確認



2 搭乗者のベルト着用を確認



3 ヘッドレストの高さ、位置、角度を調整



4 電源を入れる



5 方向選択スイッチを「昇り」へ



6 スカラモービルを傾けバランスを取る



7 駆動スイッチを押し、階段を昇る



8 上段についたら駆動スイッチを離し次の段に引きつける
※この流れで一連の動作を繰り返す



9 最終段に到着したら安定した水平な場所まで移動

階段を昇る(詳細説明)

- ① 内側と外側の駆動輪が一直線に並べられているのを確認して下さい。
- ② 搭乗者が車いすに適切に乗れているかを確認して下さい。
- ③ スカラモービルの電源をONにして、方向選択スイッチを「昇り」にして下さい。
- ④ シングルモードか連続モードかを決定します。
- ⑤ スカラモービルのバランスがとれるまで、操作者側に傾けて下さい。
階段を昇る間、この角度を維持して下さい。
- ⑥ スカラモービルの駆動輪が第一段に接地するまで、スカラモービルを階段の蹴上げに向かってスムーズに引いて下さい。スカラモービルを揺らしながら動かすのは避けて下さい。
- ⑦ 操作者に向かってスカラモービルを引いている間、駆動スイッチを作動させて下さい。
- ⑧ スカラモービルが階段を昇っている間、**駆動スイッチを離さないで下さい。**
- ⑨ スカラモービルが階段の段鼻に達しましたら駆動スイッチを離して、慎重にスカラモービルを次の階段の蹴上げまで動かして下さい。
- ⑩ 駆動スイッチをもう一度押して、次の階段を昇って下さい。
- ⑪ 階段の目的段に着くまで、上記の動作を繰り返して下さい。
- ⑫ 最終段に着地後、スカラモービルを安定した水平な場所に移動させて下さい。
(階段の段鼻付近に止めないで下さい) 内側と外側の駆動輪が一直線に並んでいるか確認して下さい。
- ⑬ 必要な場合は、車いすからスカラモービルを取り外します。
- ⑭ 階段昇降の際は操作者の立ち位置をスカラモービルと等間隔にするために、内輪が上がったら片方の足を、外輪が上がったらもう片方の足も上段に上げ、移動します。
- ⑮ 最後の3段は、膝から腰、腰から腹部、腹部から胸部というようにハンドルをスライドさせながら持ち上げるようにします。



スカラモービルをシングル・ステップ・モードに設定すれば、ステップ毎に自動的に駆動輪が一直線に揃って止まります。

階段を降りる

- ①  搭乗者が適切に車いすに乗れているかを確認
- ②  搭乗者のベルト着用を確認
- ③  ヘッドレストの高さ、位置、角度を調整
- ④  電源を入れる
- ⑤  方向選択スイッチを「降り」へ
- ⑥  スカラモービルを傾けバランスを取る
- ⑦  階段の段鼻(端)でブレーキが効くまでゆっくりと押す
- ⑧  駆動スイッチを押して階段を降りる
- ⑨  降りた段の先でブレーキが効くまでゆっくりと押す
※この流れで一連の動作を繰り返す
- ⑩  最終段に到着したら安定した水平な場所まで移動

階段を降りる(詳細説明)

- ① 内側と外側の駆動輪が一直線に並んでいるかを確認して下さい。
- ② 利用者が車いすに適切に乗れているかを確認して下さい。
- ③ スカラモービルの電源をONにして、方向選択スイッチを「降り」にして下さい。
- ④ シングルモードか連続モードかを決定します。
- ⑤ スカラモービルのバランスがとれるまで、操作者側に傾けて下さい。
階段を降りる間、この角度を維持して下さい。
- ⑥ メカニックブレーキが効くまで、慎重にスカラモービルを段鼻に向かって動かして下さい。
- ⑦ 階段を降りるために、駆動スイッチを押して下さい。そして、内側の駆動輪が次の階段に降りるまで外側の駆動輪を保持して下さい。操作者はスカラモービルをゆっくり前方の階段の段鼻まで移動させます。
- ⑧ サポートパッドに膝を当てて、安定した操作を行って下さい。
- ⑨ メカニックブレーキが効くまで階段段鼻に向かって、スムーズにスカラモービルを動かして下さい。
- ⑩ 次の階段に降りるために駆動スイッチをもう一度押して下さい。
- ⑪ 階段の目的段に着くまで、上記の動作を繰り返して下さい。
- ⑫ 最終段に着地後、スカラモービルを安定した水平な場所に移動させて下さい。
(階段の段鼻付近に止めないで下さい) 内側と外側の駆動輪が一直線に並んでいるか確認して下さい。
- ⑬ 必要な場合は、車いすからスカラモービルを取り外します。
- ⑭ 最初の3段については、胸部から腹部、腹部から腰、腰から膝というようにハンドルをスライドさせながら下ろすようにします。



スカラモービルをシングル・ステップ・モードに設定すれば、ステップ毎に自動的に4輪揃って止まります。

らせん階段(昇り/降り)

スカラモービルは、らせん階段でも威力を発揮します。階段を昇降する間、ハンドル操作でらせん階段に対してカーブに沿わせながら、4本の駆動輪を一緒に階段縁に合わせるようにし、次の段に昇降するようにします。



1



階段を昇降する間、ハンドル操作でらせん階段に沿うように引く

2



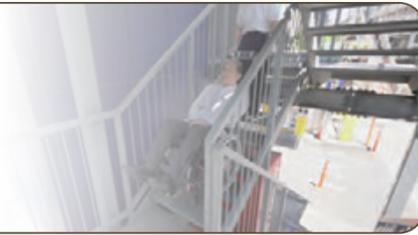
4本の駆動輪を一緒に階段縁に合わせるようにし、次の階段に昇降させる



らせん階段を昇降する場合は、シングル・ステップ・モードで昇降することをお勧めします。このモードは、ステップ毎に自動的に駆動輪が揃って止まるので、スカラモービルを次の階段に移動させやすくなります。

金属製の階段(昇り/降り)

階段の材質が鉄などの金属製の階段上でスカラモービルを使用する時は、特別な注意が必要です。スカラモービルの自動ブレーキは、金属製の階段上ではうまく働かない場合があるので注意が必要です。



無人状態で試運転を行う

※ブレーキがうまく動作しない場合は使用しない



濡れている状態や異物がある状態では決してスカラモービルの昇降機能を使用しない

⚠ 金属製の階段上で人を輸送する前に、無人状態で試運転を行って下さい。ブレーキがうまく動作しない場合は、その階段上でスカラモービルを使用しないで下さい。

⚠ 濡れて滑りやすい金属製の階段上では、スカラモービルを決して使用しないで下さい。野外の階段上でスカラモービルを使用する時は、異物やゴミがないことを確認して下さい。そのような階段上では、スカラモービルを決して使用しないで下さい。雪や水が凍った階段もスカラモービルを決して使用しないで下さい。

⚠ 地震や火災など、非常時の際は階段上で緊急停止し、急停止しましょう。ブレーキが効いていることを確認し、ハンドルを階段に置きます。その際、操作者はその場を離れず搭乗者を目視出来る状態でいて下さい。



車いす利用者が医療処置を必要とする場合、または地震や火災の非常時には階段上で停止して下さい。助けが必要な場合であっても、利用者をそのままひとりにしないで、常に目視出来るようにして下さい。

バランスの取り方

⚠ アンバランスによる前方転倒の危険性について

スカラモービルを安全に操作するためには、操作ハンドルの傾斜角度とバランスが大切なポイントです。スカラモービルのバランスがうまく取れていない状態で階段を昇降していると、最悪の場合、転倒または落下する恐れがありますので、操作中のバランスや角度は常に安全な体勢(一定の傾斜角度25~30度を保って)で操作して下さい。



⚠ 傾斜角度は約25~30度

- 操作ハンドルを延長し、約25~30度傾けたぐらいがテコの原理で最もバランスの良い状態です。それより後ろに傾けると重く感じ、前に戻すと引っ張られて前方転倒する危険があります。
- 階段を昇る角度は、約25~30度でやや立て気味にします。角度を30度以上にすると、搭乗者の荷重が操作者側に掛かり、重たく感じてしまいます。両腕を適度に伸ばして体全体をハンドルの水平ラインより後ろにし、引っ張り上げるように操作して下さい。この時、機器本体と操作者の距離が常に一定になるように階段を昇って下さい。
- 階段を降りる角度は、約25~30度でやや寝かせ気味にします。角度を25度以下にすると、搭乗者の荷重が前方へ掛かり、前方に転倒する危険があります。最初の2~3段を30度前後で降り、その後ハンドル部を大腿部に押し付けて、上半身をハンドルの水平ラインより前に出すようにすれば、自然と角度の安定と段鼻まで押す補助に繋がります。この際、ハンドルの位置が大腿部より上がってくる場合は、操作者が機器本体よりも速く降りてしまっているので、距離を保って降りて下さい。

スカラモービルの分解・組み立てと輸送

輸送するため、工具を使わずにスカラモビルを個々のコンポーネントに分解出来ます。



1 駆動ユニットからバッテリーパックを取り除く



2 2個の下側の固定ノブを緩める



3 駆動ユニットの固定部からハンドルバーを引き抜く



4 狭い空間での輸送と収納の時ハンドルバーを外すことが出来る

輸送後の組み立てについて



1 ハンドルと本体を接続する



2 下のネジを締める



3 高さ調整ネジを緩め高さを調整する



4 バッテリーを駆動ユニットに戻し完了



ハンドルから高さ調整ノブを完全に取り外さないで下さい。ハンドルバーの高さを調整するために、少し緩めるだけで十分です。



使用時は操作者の体格に合わせた高さにハンドルバーを調整して下さい。



転倒による破損を避けるため、取り外したハンドルバーは直立に置かないで下さい。地面と水平にハンドルバーを置いて下さい。

輸送中のスカラモービルの固定

輸送中は、スカラモビルが動かないよう、しっかりと固定して下さい。輸送中の突然のブレーキでスカラモビルが動くと、ドライバーや乗客に当たり怪我をする恐れがあります。スカラモビルを固定するために、紐等でそれぞれのコンポーネントを動かないように結んでおくことをお勧めします。



スカラモビルを輸送・保管する時は、地面に寝かせるか、転倒することがないように置いて下さい。

車いすタイプについて

- 本体はハンドルと駆動部を2分割でき、車いすも通常通り、折りたたみ分解出来ますので、車のトランクや室内での収納性に大変優れています。
- 後輪のクイックリリース機能により、階段昇降時は車いすのタイヤを昇降の邪魔にならない位置に（後輪輸送ホルダーに差し込み）保持します。また、より狭い場所では、後輪を外したままで昇降可能です。
- スカラモービルを車いすに取り付けた状態で駆動輪を揃えると地面から浮いた状態になりますので、平地走行がスムーズに行えます。

車いすタイプ

本体の取り付け・取り外しが簡単で車いす単体としても使用出来ます。



車いすへの取り付け方



車いすのブレーキを掛ける



車いすのクイックピンを人差し指と中指で持ち、親指でプッシュヘッドを押しながら抜く



車いすのフレームにスカラモービルのシャフトを滑り込ませる

3種類の取り付け方法

手動による取り付け



本体を持ち上げ、車いすの取り付け金具にシャフトを差し込む



取り付け金具にクイックピンを差し込む



シャフトを固定する

モーターによる取り付け



方向選択スイッチを「昇り」にし駆動スイッチを作動させる



シャフトが取り付け金具に差し込まれたら、駆動スイッチを離して停止させる



取り付け金具にクイックピンを差し込みシャフトを固定する

手動とモーターによる取り付け



本体を持ち上げ、車いすの取り付け金具にシャフトを差し込む



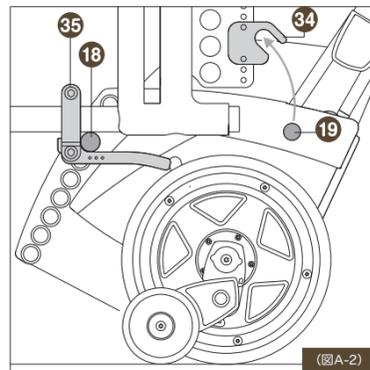
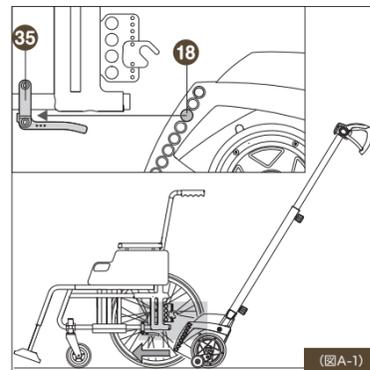
差し込まれたら駆動スイッチを押し、駆動輪を地面に付けて安定させる



取り付け金具にクイックピンを差し込みシャフトを固定する

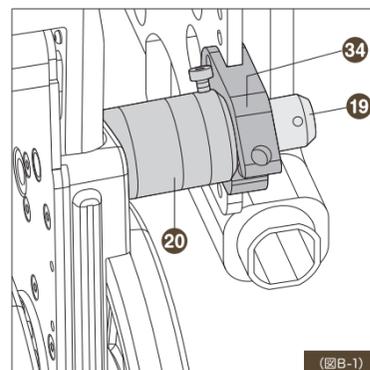
車いすへの取り付け方（詳細説明）

- スカラモービルの駆動輪を並べて、機能チェックを行って下さい。車いすを止めて、スカラモービルを取り付けて下さい。
- 取付時に車いすが動かないように、車いすの駐車ブレーキを掛けて下さい。
- (図A-1,2) に示されているように、車いすの下部サイドフレームにスカラモービルの下部シャフト 18 を滑り込ませて下さい。スカラモービル本体が車いすの中心位置にあるのを確認します。車いすに取り付けた下部シャフトブラケット 35 にスカラモービルの下部シャフトを入れ込んで下さい。下部シャフトが車いすの左右の下部シャフトブラケットに差し込まれたら、それを支点にして、車いすの上部シャフトブラケット 34 に上部シャフト 19 を差し込みます。次の3つの方法で取り付けを行います。



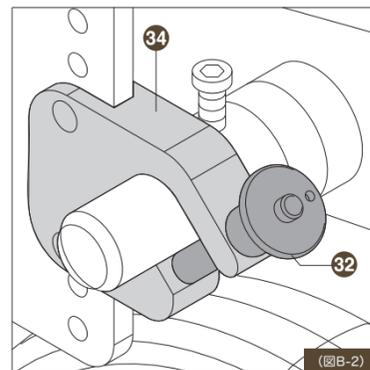
手動による取り付け

- (図 B-1,2) に示されているようにスカラモービルを上向きに回転させ、車いすの両側の上部シャフトブラケットに本体上部シャフトを差し込んで下さい。
- スカラモービルの本体上部シャフトのスペーサーリング 20 がしっかりブラケットの内側に入っているか確認して下さい。
- クイックピン 32 で2本の上部シャフトブラケットを固定して下さい。しっかり上部シャフトブラケットに2本の上部シャフトを固定します。



モーターによる取り付け

- 「昇り」モードに設定して下さい。
- 駆動スイッチを作動させ、スカラモービルをゆっくり斜め45度に回転させます。
- 2本の上部シャフトが車いすの2本の上部シャフトブラケットに指し込まれたらすぐに、駆動スイッチを離して下さい。
- スカラモービル本体の上部シャフトのスペーサーリングがしっかり取付金具のブラケットの内側に入っているか確認して下さい。
- クイックピンを上部シャフトブラケットの穴に差し込んで下さい。両側の上部シャフトを上部シャフトブラケットにしっかり固定するためです。



手動とモーターによる取り付け

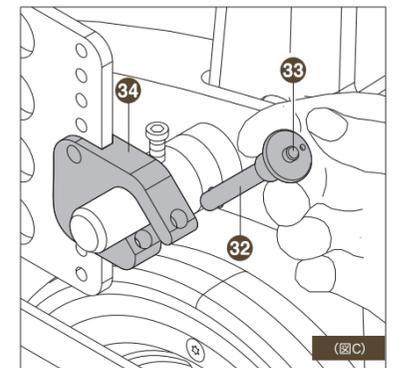
- (図 B-1,2) に示されているようにスカラモービルを上向きに回転させ、車いすの両側の上部シャフトブラケットに本体上部シャフトを差し込んで下さい。
- 「昇り」モードに設定して下さい。
- 駆動スイッチを作動させます。
- スカラモービルの駆動輪を地面に接地させたらすぐに、駆動スイッチを離して下さい。
- スカラモービル本体の上部シャフトのスペーサーリングがしっかり取付金具のブラケットの内側に入っているか確認して下さい。
- クイックピンを上部シャフトブラケットの穴に差し込んで下さい。両側の上部シャフトを上部シャフトブラケットにしっかり固定するためです。



スカラモービルを車いすに取り付けるためには、階段から離れた平らな場所で行って下さい。

クイックピンを挿入する

- (図C) に示されているように、クイックピンを挿入する際は人差し指と中指でクイックピン持って下さい。
- 親指でクイックピンのプッシュヘッド 33 を押して下さい。
- 上部シャフトブラケットの挿入穴にクイックピンを完全に挿入してください。その後にプッシュヘッドを離して下さい。



クイックピンを取り外す

- 人差し指と中指でクイックピン持って下さい。
- 親指でクイックピンのプッシュヘッドを押して下さい。
- 上部シャフトブラケットからクイックピンを引き抜いて下さい。



クイックピンはプッシュヘッドを押さない限り、挿入並びに、ブラケットから外すことが出来ません。プッシュヘッドを押さずに、クイックピンを挿入したり、取り外したりすることが出来る場合は、クイックピンに欠陥があるので、すぐに取り替えて下さい。



クイックピンに欠陥があるか、ブラケットに適切に固定されていない場合は、階段昇降を行わないで下さい。

車いすの後輪の外し方



1 駆動スイッチを押して車いすを持ち上げます



2 車いすのブレーキを解除してプッシュピンを押しながら車いすのタイヤを外します



3 スカラモービル本体の後輪輸送ホルダーに取り付けます

車いすの後輪の外し方（詳細説明）

昇降する前には、車いすの後輪2本を取り外さなければなりません。車いすから後輪を取り外し、前述したように準備出来れば、スカラモービルは階段昇降可能な状態となります。

- 駆動スイッチを作動させて下さい。スカラモービルの駆動輪を地面に接地させ、車いすの後輪を地面から浮かせます。
- 車いすの駐車ブレーキを解除し、車いすの後輪を取り外して下さい。
- 駆動輪を一直線に戻すことで、階段の昇降をする準備が整います。



警告 車いすの後輪が取り外されていない場合は、決して階段を昇降しないで下さい。車いすが転倒してしまい、大怪我の原因となります。



スカラモービルが車いすに取り付けられている状態では、車いすの重心が変わりやすいため、車いすの安定性を損なう可能性があります。

車いすの取り外し方



1 駆動スイッチを押して車いすを持ち上げる



2 プッシュピンを押し、本体からタイヤを外し、車いすにタイヤを取り付ける



3 方向選択スイッチを「降り」へ



4 駆動スイッチを押す



5 本体を下げる



6 車いすから引き抜く



7 車いすのクイックピンを奥まで差し込む



8 本体と車いすの取り外しが完了



車いすからスカラモービルを取り外した後は、階段から離れ、平らな場所に機器を置いて下さい。

車いすの取り外し方（詳細説明）

階段を昇降した後、車いすからスカラモービルを取り外すことができます。

- 「昇り」モードに設定して下さい。
- 駆動スイッチを作動させて、スカラモービルの外輪を地面に接地させ、車いすの後輪を取り付けることが出来る高さまで座面を上げて下さい。
- 後輪を車いすに取り付けて下さい。取付不良がないかどうかを後輪を引いて確認して下さい。
- 前方に車いすが進まないように、車いすの駐車ブレーキを掛けて下さい。
- 「降り」モードに設定して下さい。
- 駆動スイッチを作動させて、後輪が地面に接地するまで降ろして下さい。
- 上部シャフトブラケットからクイックピンを取り外して下さい。
- 駆動輪が一直線に並ぶまで、駆動スイッチを作動させて下さい。
- スカラモービル本体が自然に斜め手前になり、車いすからスカラモービル本体を引き出します。スカラモービルが転倒することがないように安定した位置に移動させて下さい。
- スカラモービルの電源スイッチを切り、上部シャフトブラケットにクイックピンを戻して下さい。

スカラモービルを取り付けたまま車いすで移動

スカラモービル車いすタイプは、車いすに取り付けたまま平地で使用することが出来ます。スムーズに動作させるため、駆動輪が一直線に並べられているのを確認して下さい。メカニックブレーキはスカラモービル本体より下部に出ているため、障害物（例えば、縁石等）と接触する危険性があります。これがメカニックブレーキを破損させる要因となるので、駆動部を浮かせて走行させて下さい。



スカラモービルで階段昇降を行う前に、車いすから後輪を取り外す必要があります。車いすの後輪が取り外されていない場合は、決して階段を昇降しないで下さい。車いすが転倒してしまい、大怪我の原因となります。

ポートタイプについて

- 適合範囲は、後輪幅が47~73cmで、後輪が16インチ以上の構造・仕様の車いすです。
- ポート部分は収納・折りたたみが可能です。
- ポートタイプは車いすを乗せるという特性上、重心がやや前方になるので昇降の際のバランスにご注意下さい。



ポートタイプ

様々な仕様の車いすに取り付け可能な階段昇降機です。



ポートタイプの展開と折りたたみの仕方

展開



1 後輪ラックをスライドさせ広げる

2 ロッキングピンを引きラックユニットがロックされるまで前に引き出す

3 後輪ラックを後ろに開く

折りたたみ



1 後輪ラックを閉じる

2 ロッキングレバーを引きラックユニットがロックされるまで上に引き上げる

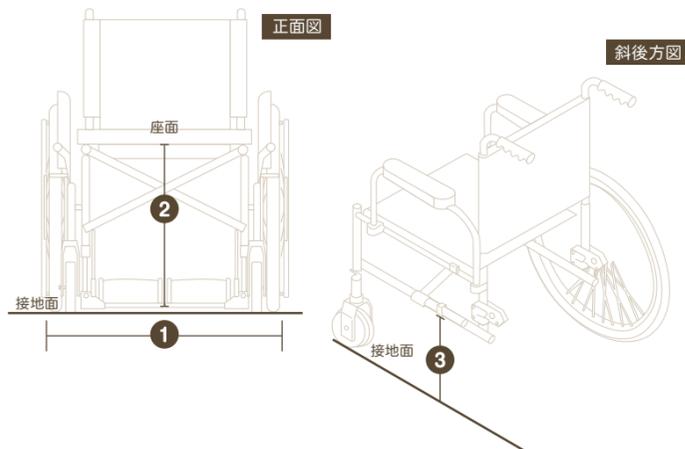
3 後輪ラックをスライドさせ縮める

ポートタイプと車いすの適合確認表

上記条件を満たす車いすであればポートタイプでの使用が可能です。

	確認項目	適合範囲
1	車いす後輪車輪幅 (左右大車輪の外側の幅)	47cm ~ 73cm
2	座面の高さ (接地面~座面下の高さ [後座高])	35cm以上
3	フレームの高さ (側面フレームの接地面からの高さ)※1	14cm以上
4	フレーム幅 (側面フレーム左右の内側の幅)※2	35cm ~ 55cm
5	バックサポートの高さ (接地面からの背もたれの高さ)※3	60cm以上

※1… 側面フレームの最も低い位置になります。転倒防止バーがついている場合はそちらもこの条件を満たしているか確認して下さい。
 ※2… 機種によっては後輪の車軸が内側に大きく出ている、一部電動車いすのバッテリー取付け部がフレームよりも内側にある場合は、最も内側にあるものからの幅となります。
 ※3… この高さの他に5cm程のつかみ部が必要になります。これはポートタイプ仕様の脱着に必要で、このつかみ部は極力ストレートで、背折れ金具等の動く可能性のある部位でないことが望ましいです。



この適合確認表は一般的な取付け可能な目安寸法です。上記条件をすべて満たしていても、後付けの用品がある場合など、車いすの形状、使用方法によっては取付けが出来ない場合があります。

また、上記条件をいずれか満たさない車いすでも、加工や調整によって取付けが可能になる場合があります。ポートタイプに取付け可能な車いすは標準タイプになります。リクライニング式車いすやチルトタイプの車いすは原則取付けが出来ません。詳しくはお問合せ下さい。

ポートタイプの車いすへの取り付け方



1 車いす後部に付属品が付いている場合は本体に干渉しないよう事前に調整する

2 スカラモービル本体と車いすの中心を合わせ、両サイドにある後輪ラックの幅を車いすの幅に合わせる

3 本体の電源を入れ「昇り」にする



4 駆動ボタンを押しラックの先端を下げる

5 車いすを斜め後ろに引いてラックに乗せブレーキをかける

6 クランプを起し背もたれのパイプに掛け、固定する



7 クランプが背パイプに対して90度になっているかを確認をする (最も安定して固定出来ている状態)

8 固定が完了したら操作ボタンを「降り」にし駆動スイッチを押して本体を下げる

9 クランプがしっかりポールを抑えているかを確認する

車いすの取り付け完了



ポートタイプの車いすの取り外し方

- 

1 本体の電源を入れる
- 

2 「昇り」にする
- 

3 駆動ボタンを押し、車いすの
キャスターを地面に接地させる
- 

4 クランプ解除スイッチを押し
ロックを緩める
- 

5 左右のクランプを背パイプから外す
- 

6 車いすのブレーキを解除する
- 

7 車いすをラックから降ろす
- 

8 車いすを降ろしたら、操作ス
witchを「降り」にする
- 

9 駆動スイッチを押し、本体を下げ
車いすの取り外しが完了

コンビタイプについて

- 室内の階段の幅や踊り場の奥行きが狭い階段の昇降、車いすまで必要ではない体位保全が出来る方の昇降に適した本体との一体型タイプです。
- 主に室内階段や商業ビルの階段、玄関までのアプローチ階段に適しており、チェア部分は折りたたみが可能です。

折りたたみ状態



最小分解状態



コンビタイプ

階段幅や踊り場の狭い階段昇降に適した
本体との一体型タイプです。



コンビタイプの展開の仕方

1 展開前の状態

2 ロッキングベルトを引いてフットレストを引き出し「カチッ」と鳴るまで展開する

3 キャスター固定ブレーキをONにする

4 アームレストを外側に向かい回転させて引き出し下に差し込みロックする

5 座面シート部分を下ろして完成

コンビタイプの折りたたみの仕方

1 座面シートを跳ね上げる

2 アームレストを2cmほど上に引き上げ、内側に倒す

3 ロッキングベルトを引いてフットレストを折りたたむ

4 フットレストが「カチッ」と鳴りロックされるまで上にあげる

5 折りたたみ完成

盗難防止機能

スカラモービルは許可のない使用者や盗難から守るために、盗難防止機能を備えており、この機能の為にマグネットキーが用意されています。

- ON**
- 1 電源スイッチをON ▶
 - 2 ディスプレイのキー表示にマグネットキーを置く ▶
 - 3 LED表示が短く点滅自動的に休止状態へ

休止状態になった後、スカラモービルの電源スイッチをONにしても盗難防止機能のシンボルLEDの表示は黄色に点滅し、階段昇降機能は休止状態となります。この時、駆動輪の動きはブロックされます。

- OFF**
- 1 電源スイッチをON ▶
 - 2 ディスプレイのキー表示にマグネットキーを置く ▶
 - 3 LEDのシンボル表示は消え盗難防止機能がOFFになり選択されている方向指示が点灯



スカラモービルの電源スイッチが入る場合にのみ、盗難防止機能のON / OFFを切り替えることが可能です。



自動電源OFF

本体を5分間全く操作していない場合、スカラモービルはバッテリーセーブのために自動的に電源が切れます。自動電源OFFとなった場合、駆動輪は電源OFF時の状態で停止します。従って、再びスカラモービルの電源スイッチを入れる時、駆動輪を正しい位置に戻す必要があります。

コンソールボックス

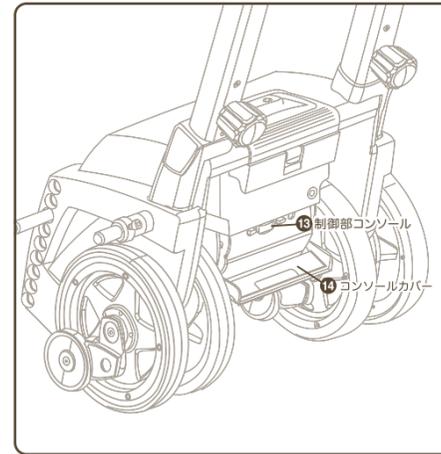
スカラモービルでの階段昇降に必要な制御部は、
駆動ユニット後部のコンソールボックスに配置されています。



コンソールボックスのカバーを開ける



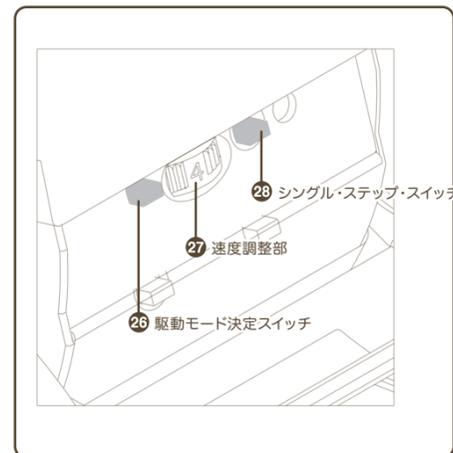
速度調整のローラーを回すことで
昇降速度の調整が可能



- 制御部コンソール 13 には後述する制御部が配置されています。コンソールカバー 14 で隠されているため、手前下に引いて開けます。

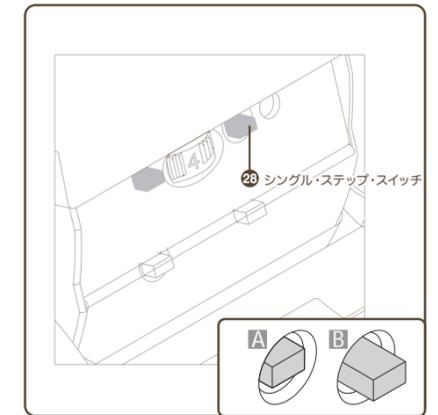
● 速度調整部 27

- ・速度調整部のローラーを左右に回して、階段を昇降したい速度を調整して下さい。
- ・速度範囲：毎分6段(最も遅い速度、スイッチ位置1)から毎分19段(最も速い速度、スイッチ位置6)の速度範囲があります。



● シングル・ステップ・モード 28

シングル・ステップ・モードは、一段動いた後に、駆動スイッチを押したままでも、自動的にセンサーで駆動輪が揃って止まります。続けて昇降するためには、駆動スイッチを一旦離して再び押します。スカラモービルの操作経験が豊富なユーザーは、シングル・ステップ・モードをOFFにして使用することにより、昇降動作を連続で行うことが可能です。



- シングル・ステップ・モードを設定するには、シングル・ステップ・スイッチを押し込んで下さい。
- シングル・ステップ・スイッチを押す(右図A)：シングル・ステップ・モードがON
- シングル・ステップ・スイッチを戻す(右図B)：シングル・ステップ・モードがOFF

 シングル・ステップ・モードは、階段の段鼻で、駆動輪が適切に整列する前の不正確な昇降運動の始動を防ぎます。その機能によって、昇降している階段上で、車いす搭乗者と操作者の両方にとってさらに安全になります。

 スカラモービルの納品時には、シングル・ステップ・モードはONになっています。

—故障かな？と思ったら—

スカラモービルをご使用中に「故障かな？」と思われる症状が出た場合は、こちらの表を参考に確認下さい。

下記の現象に当てはまらない時や対処してもなお異常がある時は、販売代理店もしくは総発売元までご相談下さい。

現象	原因	対処
電源スイッチを押しても表示ランプが点灯しない	スタンドパイプが正しく差し込まれていない	スタンドパイプを正しく入れて接続を確認する
	スタンドパイプ内部のケーブルが断線している 内部配線、基盤に問題あり	販売店にご相談下さい
	バッテリーパックが正しく入っていない	「カチッ」と音がするまで差し込んで下さい
	バッテリーパックの寿命が過ぎている	バッテリーパックの交換を販売店にご相談下さい
	充電器のプラグが差されたままになっている	充電器のプラグを外し、電源スイッチを一旦切り、再度入れ直して下さい
電源スイッチを入れた後、そのまま放置していたら、緑色の表示ランプが消えて駆動しなくなる	バッテリーの放電を防ぐため何もしないまま放置すると、5分後に省エネ機能が働き電源が自動的に切れる	電源スイッチを再度入れ直して下さい
駆動スイッチを押しても駆動車輪が動かない	電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れて下さい
	バッテリーの電圧が低くなっている	充電器を接続して、充電して下さい
	スタンドパイプ内部のケーブルが断線している 内部配線、基盤に問題あり	販売店にご相談下さい
	モーター自体に問題あり	販売店にご相談下さい
駆動車輪の動きが遅くなった	バッテリーの電圧が低くなっている	充電器を接続して、充電して下さい
	速度調整ダイヤルが低速になっている	速度調整ダイヤルを調整して下さい
駆動車輪の動きが不安定になった	駆動チェーンが伸びている	駆動チェーンの点検を販売店にご相談下さい
充電しても、すぐにパワーが落ちてしまう	バッテリーの寿命が近づき蓄電能力がない	バッテリーの交換を販売店にご相談下さい
	充電器の故障により、適正に充電出来ない	販売店にご相談下さい
階段を降りる時、階段段鼻（端）でブレーキが効かずに次の段に落ちてしまう	メカニックブレーキの破損または消耗により正常に動いてない	メカニックブレーキの交換を販売店にご相談下さい
	駆動車輪の表面にゴミ、水気、油分が付着しているためスリップする	車輪表面のゴミ、水気、油分をよく拭き取って下さい
	通過した階段の表面が水や油で濡れている	車輪表面のゴミ、水気、油分をよく拭き取って下さい 昇降する階段の表面をよく清掃して乾いた状態にして下さい
駆動車輪での走行時の動き（押すまたは引く）がスムーズに出来ない	メカニックブレーキの破損または消耗により正常に動いていない	メカニックブレーキの修理または交換を販売店にご相談下さい

—安全確保のための注意点—

一般的な安全性と危険情報

階段昇降をする際、スカラモービルで輸送される人の安全や介護を優先的に考える必要があります。この取扱説明書の安全指示を守ってスカラモービルをご使用下さい。

- 搭乗者を輸送する時には、シートベルトを使用して下さい。
- 階段を昇る前後に、駆動輪およびメカニックブレーキを点検して下さい。
- 誤動作を防ぐため、車いす搭乗者が正しく車いすに座っているかを確認して下さい、また、離れる間は、常にスカラモービルの電源スイッチを切って下さい。
- 昇降の間に車いす利用者の体調が悪くなった場合は、出来るだけ速く昇降をして搭乗者の介護をして下さい。
- 階段上ではスカラモービルを決して離さないで下さい。非常時の場合を除いて、スカラモービルを階段に降ろさないで下さい。
- 昇降を開始したら最終段まで昇降して下さい。非常時にはスカラモービルを降ろして階段で緊急停止して下さい。その際、スカラモービルが階段の段鼻から落ちることをメカニックブレーキが防ぎます。
- 昇降中に車いす搭乗者が突然発作を起こした場合、すぐに昇降を中断して下さい。スカラモービルを階段に降ろして、スカラモービルを緊急停止して下さい。車いす搭乗者の介護を優先して、昇降を続ける前に搭乗者の発作の処置をして下さい。
- 車いす搭乗者の輸送と昇降中、車いすのアームレストに利用者の腕がしっかりと乗っているかを確認して下さい。腕が車いすから落ちて怪我をする恐れがあります。
- オプションは、スカラモービル用に設計された純正のオプションのみを使用して下さい。
- 階段が濡れていたり、ワックスが引かれているような滑りやすい階段では、階段の昇降にスカラモービルを決して使用しないで下さい。また、カーペット等が弛んでいる階段等でも使用しないで下さい。
- 氷点下で階段や地面が凍っている状態ではスカラモービルを使用しないで下さい。
- 金属製の階段上でスカラモービルを使用する時は特に注意が必要です。昇降する前に、無人状態のスカラモービルで試運転をして下さい。メカニックブレーキが適切に動作しない場合は、スカラモービルを使用しないで下さい。
- スカラモービルで昇降出来る階段は、高さ21(25)cm以下の階段と、奥行き12(17)cm以上の階段となっています。
- スカラモービルはスリッパやヒールがある靴で使用しないで下さい。
- 手袋は駆動スイッチに引っかかる危険性があるので使用しないで下さい。
- 階段を昇降している間、搭乗者が手摺りに掴まらないように注意して下さい。
- スカラモービルの操作中は、駆動輪に決して手を触れないで下さい。また、搭乗者の人も駆動輪に手を触れないよう注意して下さい。
- 定期的に駆動ユニットとメカニックブレーキを点検して、異物が付着していないかを確認して下さい。
- 階段を昇降する前にスカラモービルを点検して、異物が入っていないか、スムーズに動くかを確認して下さい。
- 飲酒時や精神に作用するような薬を服用した状態では決してスカラモービルを操作しないで下さい。
- 可燃性ガスの近くではスカラモービルを決して操作しないで下さい。
- スカラモービルは満充電の状態では体重70kgの搭乗者を最大約300段の階段を昇降させることが出来る強力なバッテリーパックを備えています。が、階段昇降中のバッテリー切れを防ぐために、スカラモービルの各使用後にバッテリーパックの再充電を行って下さい。
- スカラモービルは-25度~+50度の気温でご使用下さい。
- スカラモービルの搭乗者の膝等にペットを乗せて輸送することはお止め下さい。
- スカラモービルを輸送または清掃する時には、バッテリーパックを取り外して下さい。
- ハンドルバーの制御部のスイッチに影響を与える危険性があるのでハンドルに物を掛けないで下さい。
- スカラモービルで階段を昇降している間、常に素手でハンドルを持ち、離さないで下さい。
- スカラモービルを使用する際はグリスや油、ハンドクリーム等をしっかり落とし状態で作成して下さい。ハンドルグリップが滑る危険性があります。
- ハンドルバーの高さを調整する時に、手や指を挟まないように注意して下さい。
- スカラモービルを使用しない時は、湿気の少ない乾いた場所に保管して下さい。
- 雨天時に、野外でスカラモービルを使用しないで下さい。また、機器本体を車いすに取り付けられたままにしないで下さい。

スカラモービルに取り付けられた標示・指示（スカラモービルに添付された安全運転の標示と指示を以下に示します）

正規代理店が総発売元により操作講習を受講し合格した人は、スカラモービルを操作することが出来ます。操作講習の間、スカラモービルの全ての機能とその操作について適切に知らされたかを確認して下さい。

—技術データ—

駆動ユニットのフロアからの距離	2cm以上
駆動ユニットの幅	37cm
付属ハンドルバーの高さ	113cm ~ 117cm
ハンドルバーの幅	43cm ~ 54cm (外々寸法)
ハンドルバーなしの重量	20kg
ハンドルバーありの重量	25kg
ハンドルバーの重量	5kg
最大積載荷重	180kg
最大利用者体重(*)	140kg(車いすタイプ・コンビタイプの場合)
最大利用者体重	120kg(ポートタイプの場合)
モーター電圧	24V
上昇速度 (**)	約19ステップ / 分
充電容量(**)	約300段
バッテリーパックは駆動ユニットに差し込みます。	
バッテリータイプ	メンテナンスフリー鉛シールドバッテリー
バッテリー容量	DC12V × 3.4Ah × 2
バッテリーパックの重量	2.7kg
バッテリー充電器	
モデル / タイプ	BC2410LA 入力電圧
入力電圧	90-265VAC
定格出力電圧	24VDC
充電電流	1A
充電方法	VOU
使用	バッテリーパックは再充電用に設計されています。

技術資料と取扱説明書について、バッテリー充電器の別の取扱説明書を参照して下さい。
スカラモービルのすべての電装品は水滴と温度に対して保護が必要です。

(*) この値は上記の技術的限界値を示しており、車いすの種類により異なります。また、この値は操作者の慣れにも影響されます。

(**) 有効距離と上昇速度は動作状況と搭乗者の体重によって異なります。指定されている範囲は最適な輸送条件(完全に再充電されたバッテリー、約20度の周囲温度、滑らかな運動など)において有効です。

スカラモービルはヨーロッパの医療機器指令 93/42/EEC に定められた基準に合致しています。スカラモービルはS07176-23のすべての適合基準に合致しています。メーカーはデザインを変更し製品に最新の技術的改良を取り入れる権利を保有しています。

—保証—

- 本体の保証期間は、お買い上げ後1年間です。
- バッテリー自体の保証期間は、6ヵ月間です。
- ただし次の場合は、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

- ・取扱説明書の使用方法、注意に反する取扱によって発生した故障の場合
- ・操作トレーニングを受けていない人が使用し故障した場合
- ・無断での仕様変更および改造による故障の場合
- ・火災、天災による故障および損傷の場合
- ・修理に要した運賃等の諸経費

- 機能性部品が供給できる限り保守点検を行います。メーカー側の製造中止から2年間が限度です。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。

保証書

		検査印	
品名	スカラモービル	製品番号	
ご住所 〒	TEL		
お名前	お買い上げ日 年 月 日		
販売店	住所 店名 TEL		
(印)			

*万一故障の場合は、お取次いただいた販売店またはアルバジャパンへ保証書をご持参の上、修理をお申し付け下さい。
*保証書は再発行しませんので大切に保管して下さい。

階段昇降機・スカラモービルは

Alber Japan
 株式会社アルバジャパン

—会社概要—

社名	株式会社アルバジャパン
代表者	代表取締役 奥畑 栄一
本社所在地	〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 パレス南池袋2階
TEL	03-6907-7025
FAX	03-6907-7026
URL	http://www.alber.jp

大阪営業所	〒577-0023 大阪府東大阪市荒本2-18-25
TEL	06-6785-7103
FAX	06-6785-7104

足利工場 (商品管理センター)	〒326-0006 栃木県足利市利保町1-58-1
--------------------	---------------------------

業務内容

1. 車いす及び荷物用の可搬型階段昇降機の輸入、販売
2. 車いす、車いす付属品、部品の製造、輸入、販売
3. 車いす用電動化ユニットの輸入、販売
4. 前各号に付帯、関連する業務

商品管理センターでは、お問い合わせ窓口を設けておりません。
恐れ入りますが、本社お問い合わせ窓口へおかけ下さい。
TEL 03-3984-1345 平日 9:00～17:00